

研究課題名：プラチナ抵抗性再発卵巣がん症例のその後の化学療法の効果について

1. 研究の対象

2000年から2021年までの間に、当院で治療をした卵巣癌・卵管癌・腹膜癌症例

2. 研究目的・方法

卵巣癌・卵管癌・腹膜癌ではシスプラチンやカルボプラチンといった、プラチナ製剤が効かなくなった場合（プラチナ抵抗性再発）には、治療の効果が低くなるため、副作用が少ない治療がすすめられています。NCCNガイドライン2017年版ではプラチナ製剤が効かなくなった再発274症例について詳細に検討した報告を根拠に、2回連続して化学療法が効かなくなった症例には化学療法を進めないことを提案しています。一方で、プラチナ抵抗性再発になった後に3回以上化学療法を実施した化学療法群と未実施の未治療群の比較では、化学療法群において有意に生存期間が延長する場合があるという報告もあります。また、生活の質（QOL：Quality of Life）を評価した研究では、化学療法施行で1/4の症例でQOLが改善するが、1/3は悪化していたと報告されている。当院での治療の経過を後方視的に検討して、治療を薦めたほうがほうがいいのか、薦めないほうがいいのかなどの因子などを解析し、化学療法をすることの利益・不利益を予測できる方法を検討します。

研究期間：倫理審査委員会承認日 ～ 2024年 12月 31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

カルテに記載されている情報：治療歴、採血結果、画像評価等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

当院研究責任者：

新潟県立がんセンター新潟病院（婦人科）

当院研究責任者：（氏名 西川伸道）

連絡先：新潟市中央区川岸町2丁目15番地3

TEL：025-266-5111（大代表）